

# 出資団体台帳

出資団体名	<b>8.飛岳観光株式会社</b>
-------	-------------------

所管課	観光課
担当	

## 1. 出資団体概要 (令和5年4月1日現在)

①法人分類	株式会社 ( )		
②業務分類	観光・レジャー ( )		
③主な活動範囲	市内規模 ( )		
④所在地	高山市花岡町1丁目15番地		
⑤設立年月日	昭和43年11月18日		
⑥従業員数	役員	(常勤) 3人	(非常勤)
	正社員	(常勤)	(内出向)
⑦役員等	役職名	氏名	市所属・職位
	代表者		
	役員		
⑧資本金	20,000 千円		
	出資者	資産種別	出資額 出資割合
	高山市	有価証券	500千円 2.5%
	他自治体		0.0%
	その他	有価証券	19,500千円 97.5%
	【備考】		

⑨設立目的			
	定款に掲げる主な事業内容	現在の実施の有無	主な受益者
	索道事業	実施 理由 ( )	施設利用者
	食堂の経営	未実施 理由 ( 会社創設時の定款のまま )	
	温泉の掘削業	未実施 理由 ( 会社創設時の定款のまま )	
	旅館、ホテル、ドライブインの経営	未実施 理由 ( 会社創設時の定款のまま )	
	鍾乳洞の観光	未実施 理由 ( 会社創設時の定款のまま )	
	公衆浴場の経営	実施 理由 ( )	施設利用者
	不動産の売買、賃貸及び管理業	未実施 理由 ( 会社創設時の定款のまま )	
		理由 ( )	
		理由 ( )	
		理由 ( )	
⑩地域の関わり	丹生川地域における地域振興や観光振興の観点で、スキー場運営（索道事業）を行っている。		
⑪市民の関わり	冬期の地域住民の雇用促進に繋がっている。 ほおのき平スキー場は、市民のスポーツ施設として親しまれている。		
⑫経緯	<p>出資時の状況</p> <p>昭和40年に大橋氏により発見された「飛驒大鍾乳洞」を同社が公開し、後に枝分かれ組織化された「飛驒大鍾乳洞観光株式会社」が鍾乳洞を運営。飛岳観光株式会社は、別事業のスキー場運営などを展開することとした。 S45. 5. 30 旧丹生川村地域の観光産業の振興を目指し旧丹生川村が出資 1,000株（500,000円）取得</p> <p>その後の経緯</p> <p>H17. 2. 1 市町村合併により市に1,000株（500,000円）の出資を継承</p>		

## 2. 事業概要

①事業	②市事業	③種別	④業務内容、状況、課題等 (施設がある場合は、施設ごとの状況、公共施設等総合管理計画における方針を記入)	⑤事業収支	⑥定性的評価		
					市による 関与の必要性	民間による 代替性	事業の 採算性
索道事業	—	団体事業	ほおのき平スキー場内リフトの維持管理、運営 所持リフト1基 2020年リフト1基を譲渡	黒字	無	有	有
公衆浴場事業	—	団体事業	日帰り温泉施設 ひがくの湯 ・経営全般を他社へ委託している。(無料で貸している)	—	無	有	無

### 3. 財務状況

(1) 貸借対照表									
項目									
資産の部合計	A								
流動資産	B								
固定資産	C								
繰延資産									
負債の部合計									
流動負債	D								
(うち借入金)	E								
固定負債									
(うち借入金)	F								
純資産の部	G								
資本金									
利益剰余金等									
健全性指標									
債務超過の有無 (G)	目標：無								
自己資本比率 (G/A)	目標：50%以上								
流動比率 (B/D)	目標：150%以上								
固定比率 (C/G)	目標：100%以下								
借入金依存度 ((E+F)/A)	目標：前年比較減								
(2) 損益計算書									
営業収益									
営業費用									
(うち売上原価) (対営業収益比率)									
(うち人件費) (対営業収益比率)									
〈営業損益〉									
営業外損益									
〈経常損益〉									
〈当期純損益〉									
〈評価分析〉									

### 4. 市の財政的関与

区分	0	0	0	0	0
出資金	500 千円	500 千円	500 千円	500 千円	500 千円
負担金、補助及び交付金					
指定管理料					
その他				-2 千円	-2 千円
備考	その他 使用料 R3 △2千円、R4 △2千円				

## 5. 課題等

項目		市所管課	団体	
S W O T 分 析	内部分析	強み	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ほおのき平スキー場は初心者から上級者、老若男女など幅広い客層に利用されている。キッズゲレンデ、競技用ゲレンデの充実</li> <li>・良質で豊富な温泉資源</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ほおのき平スキー場内に索道施設を保有しており幅広い客層に利用されている。</li> </ul>
		弱み	<ul style="list-style-type: none"> <li>・気象条件により施設の使用ができなくなる場合がある。</li> <li>・地域の関わりが大きい、外部の視点が少ない。</li> <li>・近郊には、都市部からより近い大規模なスキー場がある。</li> <li>・社内に索道技術者がいないため、業務委託している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・スキー場は、暖冬、雪不足等の気象条件により入込数に大きく影響する。</li> </ul>
	外部分析	機会	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コロナ禍以降における屋外活動への関心の高まり</li> <li>・中部縦貫自動車道の延伸による客足の増加が見込まれる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・アフターコロナにおいて人の活動が変化し、屋外施設の利用客の増加が見込まれる。</li> </ul>
		脅威	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新型コロナや災害、天候不良など予期せぬ事態が発生した際に来客数が減少する。</li> <li>・スキー人口の減少</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新型コロナや災害、天候不良などにより来客数が減少する。</li> <li>・気象の変化（暖冬）</li> </ul>
事業面 (必要性、公益性、採算性、収益性など)		<ul style="list-style-type: none"> <li>・市町村合併以前は、地域のまちづくりの観点でも公益性の高い事業者の一つであったが、スキー人口の減少や旅行形態の変化、合併後の市全体のまちづくりや当該施設のあり方を考えると公益性は極めて低い。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・収益の減少により索道事業を縮小している。</li> </ul>	
財政面 (財務状況の現状や将来の見通しなど)		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ここ数年営業損益のマイナスが続いており、財政基盤が非常に悪い。</li> <li>・借入過多であり金利負担が大きい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・過年より債務超過となっており財政面は厳しい。</li> </ul>	
施設・設備 (所有する建物や設備等の状況など)		<ul style="list-style-type: none"> <li>・保有施設の老朽化に伴い、設備投資費用の捻出が必要である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保有施設の老朽化に伴い、設備投資費用の捻出が必要である。</li> </ul>	
組織・人員体制 (役員や従業員等の状況など)		<ul style="list-style-type: none"> <li>・同族関係者のみで役員が構成されている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・同族関係者で構成している。</li> </ul>	
公共施設等総合管理計画 (方針と今後の考え方)		—	—	
自由記載 (団体や事業の今後のあり方や果たすべき役割について)				